

# 学校だより



第136号



独立行政法人 国立高等専門学校機構  
**群馬工業高等専門学校**  
National Institute of Technology (KOSEN), Gunma College

〒371-8530 群馬県前橋市鳥羽町580番地 <https://www.gunma-ct.ac.jp/>

2025.12.16 広報委員会発行

## CONTENTS

挨拶 第25回工華祭／校長 大金 伸光	02
「誰かを応援し、誰かに応援される」喜びを／ 後援会会長 吉田 涼子	02
特集〈工華祭特集〉	
〈偉業達成?!〉／工華祭実行委員長 4M 津金 暖人	03
〈工華祭を終えて〉／学生主事補 石関 正典	03
〈初めての工華祭〉／1年1組 (M) 小野 聡士 他	04
全国高等専門学校体育大会	06
学生の活躍／コンテスト	07
球技大会報告／着任挨拶	09
関東信越地区文化発表会	10
1日研修旅行	12
社会見学旅行	14
高専ロボコン2025関東甲信越地区大会	16
NEWS&TOPICS	17
国際交流室／EXPO2025	18
インターンシップ2025	19
専攻科30周年記念事業	20

(題字・下田 功 初代校長)

# 第25回工華祭

校長 大金 伸光

第25回工華祭が、10月25・26日に開催されました。

今年の工華祭のテーマは「思い出をかけぬけて」。このテーマには、「工華祭という学校生活の中で見れば短い時間を全力でかけぬけて、いい思い出にして欲しい。そんな工華祭をみんなで作り上げたい。」という思いが込められているそうです。

学生の皆さんは、心に残る思い出をたくさん作ることができたでしょうか？

工華祭当日は、あいにく天気には恵まれませんでした。2日間で、5,700人以上の方が本校を訪れていただき、工華祭を楽しんでいただきました。

クラスや部活動、有志の企画、模擬店、バンドやダンスのステージ、演劇、ロボコンの展示等々、どれも工夫を凝らした高専生らしい、すばらしい企画だったと思います。

また、工華祭では、本校が今年度から取り組んでいる「ぐんま女子中高生理系進路選択への追い風プロジェクト」の一環として、企業等で活躍されている高専卒業生をはじめとした女性技術者の方に、進路選択の経緯や現在の仕事・生活等についてお話をさせていただく「未来を考える座談会」を実施しましたが、女子の皆さんだけでなく、男子の皆さんも、そうした先輩方の話に熱心に聞き入っていました。

準備期間中は、いろいろな課題（ちょっとしたトラブル）などもあったのではないかと思います。それらを皆で協力ながら解決して工華祭当日を迎えたことは、学生の皆さんにとって貴重な経験になったのではないかと思います。特に、工華祭実行委員会の皆さんは、大変お疲れ様でした。

学生の皆さんは、工華祭での経験も糧にしながら、これからも、関心のあることに積極的にチャレンジしていただければと思います。



## 「誰かを応援し、誰かに応援される」喜びを

後援会会長 吉田 涼子

今年度も総会・地区懇談会と、予定していた後援会主催事業を無事に実施することが出来ております。これもひとえに、会員の皆様と教職員の皆様のご理解ご協力の賜物と、この場をお借りして心より感謝申し上げます。今後は、1・2年生対象の学年別学校生活説明会、3・4年生対象の進路説明会、卒業修了祝賀会を実施予定です。対象学年の会員の皆様におきましては、後援会HPを確認の上、是非ご参加いただければ幸いです。

さて、今年度も高専ロボコン地区大会の応援に足を運びました。群馬高専は残念ながら予選敗退でしたが、大人の我々には到底思いつかないような若い発想力と、それを形にできる高専生の高い技術力に大きな拍手を贈りたいと思います。また、今年は2年に1度の工華祭が実施されました。雨にも負けない、学生さんたちの楽しそうな姿にたくさんの元気をもらってまいりました。この他にも、部活動や研究活動、海外語学研修など、様々な分野における学生さんたちの活躍の報告を多方面から伺っており、後援会役員として心から嬉しく感じております。

ロボコンや工華祭での学生さんの姿に触れ、かけがえのない友と過ごす中で、誰かのために懸命に応援し、誰かから懸命に応援され、だからこそ自然と溢れてくる眩しいほどの笑顔に感銘を受けました。

学生の皆さんには、今しか出来ない人と人とのかわりを目一杯楽しみながら「誰かを応援し、誰かに応援される」喜びをたくさん味わってもらいたいと願います。そして、その柔らかい頭で、常識に囚われず、無限の可能性を信じ、色々なことにチャレンジしてってください。私たち後援会は、学生の皆さんの笑顔と、夢の実現のために、これからも全力で応援をしていきます！！



特集

第25回

工華祭



## 偉業達成？！

今回の工華祭は雨に見舞われたにもかかわらず、5,000人以上の方にご来場いただき、両日も大盛況となりました！みなさんは工華祭を存分に楽しむことができましたでしょうか？

企画展示や盛り上がったステージなど、どの場面を切り取ってもとても素晴らしい工華祭だったと感じています。準備日や片付け日を含めたあの期間が、皆さんにとって少しでも良い思い出として残っていれば嬉しいです。

タイトルにもあるように、偉業というのは、準備日から片付け日まで大きなトラブルなく終わられたことです。あまりに順調だったため、OBの方々から逆に心配されるほどでした。「ここまでトラブルがない工華祭は初めてだよ」と言われ、私は満遍の笑みでした。実行委員の間でも「これは嵐の前の静けさでは…？」という話をしていました。何ももなく終わられて本当に良かったです。

閉会式でもお伝えしましたが、トラブルなく運営できたのは、実行委員のみなさんをはじめ、教職員や学生課の方々のお力添えのおかげです。工華祭運営にご協力いただき、本当にありがとうございました。



工華祭実行委員長 4M  
津金 暖人

## 工華祭を終えて

第25回工華祭が10月25日（土）・26日（日）に開催されました。実行委員と準備に取り組んだ半年間、様々な課題もありましたが、振り返るとあっという間だったなという感想です。当日はあいにくの天気となってしまいましたが、2日間で5,000人以上の方にご来場いただきました。これも実行委員会のメンバーをはじめ、各企画に熱心に取り組んだ学生の皆さんの頑張りの成果だと思います。皆さんが少しでも思い出に残るような時間を過ごせたなら幸いです。

工華祭の運営にあたり、実行委員長の津金さんをはじめ、実行委員会のメンバーの苦勞は想像以上のものだったと思います。また、雨の中駐車場の誘導を担当してくれた警備課のメンバー、ステージの設営を行ってくれた企画運営課のメンバーなど、多くの学生に協力をいただきました。皆さんのおかげで無事に工華祭を終えることができました。最後に、工華祭の運営にご協力をいただいた学生支援係、経理系の皆さま、教職員の皆さま、ご来場いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



学生主事補（学生会担当）  
石関 正典



## 初めての工華祭 1年1組 (M) 小野 聡士

私は約半年間、工華祭実行委員という委員を務めました。1年1組の初めての工華祭は、クラスの皆さんの協力のもと、計画的に楽しく無事に終わることが出来て、私自身としても大変安堵しています。

クラスメイトや実行委員、そして私が所属していた工華祭実行委員会の課長、並びに実行委員長の皆さまには深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 突貫工事のチョコバナナ

2年2組 (E) 伊勢 文秋

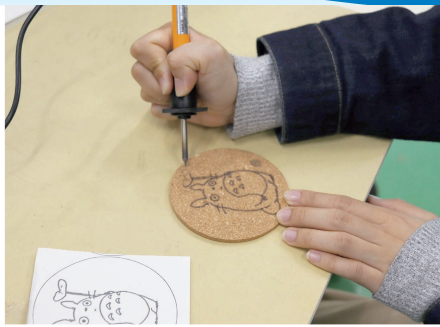
今回、初めてとなる工華祭ではチョコバナナを販売しました。知識も技量もない中で、完売まで漕ぎ着けたのはとてもよかったと思います。また、クラスメイトが一丸となってチョコバナナを販売する姿には感動しました。協力していただいた方には感謝しかありません。工華祭を通して、より一層クラスの絆が深まったのではないかと考えています。



## 将軍盛り 3J 船津 豊幸

インフルエンザにより滑り込みで参加した。ダンスと友達のバンドはおおいに盛り上がった。しかし、野球部のうどんはそれらに負けなかった。ホールとキッチンコンビネーションはかつてのアライバを彷彿とさせるような美しさだったし、カレーうどんはまじで美味かった。2年に1度の文化祭を楽しめてよかった。

# 工華祭



## 冥土喫茶

4K 池田 龍飛

今年の工華祭では、私たちは冥土喫茶を出展しました。墓石や彼岸花を飾りに使い、幽霊の衣装を着たスタッフが接客を行いました。また、来場者にドリンクの提供も行いました。黒板に写経を書いたり、お札を飾ったりと細部まで工夫をこらし、多くの来場者に楽しんでもらうことができ、工夫を活かした企画となりました。



## 5CのBAR 5C 落合 優太

5Cは工華祭で飲み物屋さんをしました。準備からクラスメイトと協力し合うことができました。クラスや部活ごとの出し物が盛り上がり、友達と協力して準備した達成感を味わえました。来場者の笑顔や「いい雰囲気」と言ってもらえるのが嬉しく、普段とは違う一面を見せ合えたのも印象的でした。思い出に残る2日間になりました。



# 全国高等専門学校体育大会

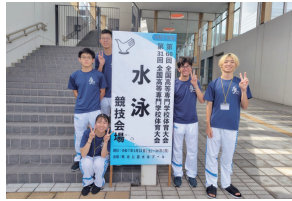
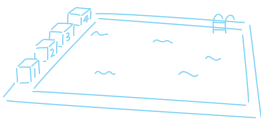
## 今年は鹿児島で泳いできました！

水泳部 3K 黒澤 一輝

第31回全国高等専門学校水泳競技大会が8月23・24日に鹿児島県の鴨池公園プールで開催されました。群馬高専からは男子4名、女子1名の計5名が出場しました。私は4×100mメドレーリレー、100m背泳ぎ、200m背泳ぎの3種目に出場しました。

しかし、結果は4×100mメドレーリレー、100m背泳ぎ共に決勝に残ることはできず、200m背泳ぎも10位の補欠という残念なものでした。他のメンバーも決勝に残ることができず、悔しい結果となりました。

今年はあまり練習の時間が取れず、練習の質も落ちてしまっていました。そのため去年と比べてタイムも落ち、補欠という結果で終わってしまったため、今よりも練習の量と質を上げて来年こそは全国の決勝の舞台で泳ぎたいです。最後に大会を開催してくれた関係者の方、引率に来てくれた辻先生、応援してくれた仲間にとっても感謝しています。



## 3度目の全国大会に挑んで

卓球部 4C 菅谷 美羽

9月5日～7日にかけて福岡県大牟田市で行われた卓球の全国高専体育大会に、私たち（原野恋羽・菅谷美羽）は女子ダブルスで出場しました。全国大会には1年生、2年生の時にも、同じペアで出場しており、今回が3回目の全国の舞台でした。久しぶりの全国の雰囲気にも緊張もありましたが、2人で声を掛け合いながら最後まで諦めずにプレーしました。

結果は予選リーグで敗退しましたが、全国大会出場選手たちのレベルを改めて実感できたことは大きな経験になりました。悔しさは残りましたが、この大会を通して感じた課題を忘れずに、これからの練習に活かしていきたいと思います。また、全国の舞台で多くの選手と関わったことは、私たちにとって貴重な経験であり、良い思い出にもなりました。応援してくださった先生方や仲間みんなに感謝しています。



## 仲間と挑んだ全国大会

剣道部 2年1組(C) ハリソン ひかり

私たち剣道部女子は8月30日、31日に有明高専主管の第60回全国高等専門学校体育大会に出場しました。去年は全国大会出場を逃してしまったので、今回は一緒に頑張ってきた仲間と行けることが決まり本当に嬉しかったです。

私たちの試合は開会式直後の第一試合目だったのでとても緊張しました。結果は、決勝リーグに上がることはできませんでしたが、自分たちにできることを全力で出し切れたのでいい経験になりました。また、大会後に和歌山高専さんと交流することができました。この縁は大会に出場したからこそ生まれたもので、改めて頑張ってきてよかったと感じました。最後に今大会を無事終えることができたのは、顧問である石川先生、部長や練習に付き合ってくれた部員、マネージャー、学生課の方々のサポートがあったからこそだと思います。ほんとうにありがとうございました。来年も全国大会に出場できるように精一杯鍛錬し続けたいと思います。



## 全国大会で感じた緊張と達成感

陸上競技部 3K 勝又 海渡

私は、大分で行われた全国高専大会の三段跳びに出場しました。競技歴が浅くて大会慣れもしていなかったため、強い緊張感をもって大会に挑むことができました。地区大会の跳躍で見つけた課題を中心に練習に励んだ結果、自己ベストを40cmほど更新し、7位入賞することができて嬉しかったです。全国の高専から集まった選手達は、身長が高く体格の良い選手ばかりで、特に助走スピードやジャンプの伸びにおいて圧倒されましたが、そのような選手達と同じ砂場で競うことができて非常に貴重な経験になりました。

大会でサポートをくださった顧問の先生方や部員、応援してくれた友達や家族に感謝しています。来年はメダル獲得を目指すとともに、三段跳び以外の種目でも全国大会に出場できるよう、日々の練習にさらに熱心に取り組んでいきたいです。



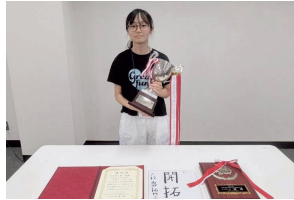
# 学生の活躍

## 初優勝

将棋部 1年1組 (K) 古市 灯

8月末に行われた全国大会の女子個人戦で優勝することができました。初めての高専大会で緊張しましたが、落ち着いて指すことを意識しました。対局では最後まで諦めずに指したことで勝ち切ることができました。また、対局中の判断力や集中力の大切さを改めて学ぶことができ、精神面でも鍛えることができたと思います。

今回の経験を通して自信に繋がり、もっと上達したいという思いも強くなりました。これからも向上心を持って将棋に取り組んでいきたいです。



## 自転車愛好会に所属して得たものとこれからの活動

自転車愛好会 2年2組 (C) 松村 拓弥

私は自転車愛好会に所属し、ロードレースやトラック競技に取り組んでいます。

今年は全国高等学校総合体育大会（インターハイ）や全国都道府県対抗大会に出場し、全国の強豪選手と競い合う中で自分の実力を高めつつ、今年に入って初めて全国の舞台で頂点に立つことができました。

また、国内のレースだけでなく、ヨーロッパなどのレースにも出場し、異なる環境でのレースを通して実力差だけでなく、大会での雰囲気の違いを知り、多くの学びを得ることができました。

支えてくださる先生方や仲間、家族への感謝を忘れず、今後も一つ一つのレースで成長できるよう、勉学と両立しながら努力し続けていきたいです。



# コンテスト

## 沈まない努力

コンクリートカヌー愛好会 2年4組 (C) 関根 耕太郎

半年前から準備を重ね、僕たちもこの大会に参加しました。車を出して材料の運搬を手伝ってくれた母さん、たくさんのアドバイスをくださった先生方、作業を手伝ってくれた会員の皆、たくさんの人々に協力していただき、満足のいく結果を得ることができました。来年は総合一位を目指します。協力してくださった方々の期待に応えられるよう精一杯頑張ります。



## 浮かぶコンクリートカヌー

コンクリートカヌー愛好会 2年4組 (C) 関根 恵信

今回の大会ではほとんどの作業が初めてで、手探りでカヌーの作成を行いました。教授や友人たちの助けのおかげで何とか大会まで漕ぎつけ、本番では最後まで漕ぎ切り決勝レースまで残ることができました。来年はより良い戦績を残すため今回の経験を活かし後輩たちにも技術を伝えていきたいと考えています。



## ホンダエコマイレッジチャレンジ 全国大会の感想

エコパ 3M 永井 怜

2025年10月11日、12日栃木県にあるモビリティリゾートもてぎで行われたHonda エコマイレッジチャレンジ2025年全国大会に2台のマシンで出場した。この大会はコースをマシンが走り燃費を競うというものだ。1日目の練習走行日では大雨の中、車検が行われず濡れになりながら車検を通した。車検を苦労して通したが残念ながら練習走行が中止になってしまった。2日目本番の日は幸運なことに快晴になった。本番の日も車検があり1日目よりスムーズに車検が通った。去年とマシンのドライバーが変わっており練習走行も中止のためぶっつけ本番での走行になったが3輪のマシンは無事完走、2輪のマシンの方はリッター163kmで6位という結果を残せた。来年からカーボンニュートラル燃料になるが変化した燃料でも頑張りたいと思う。



## 令和7年度 全国体育大会結果一覧

種目	開催校	開催期日	結果			備考	
陸上競技	大分	8/29～8/30	男子三段跳	7位	勝又海渡 (3K)	13m46	入賞
			男子砲丸投	9位	狩野太志 (2M)	11m01	
水泳	熊本	8/23～8/24	男子100m背泳ぎ	予選敗退	黒澤 一輝(3K)		
			男子200m背泳ぎ	予選敗退	黒澤 一輝(3K)		
			男子4×100mメドレーリレー	予選敗退			
			女子200m個人メドレー	予選敗退	櫻井 花梨(5C)		
卓球	有明	9/6～9/7	女子個人戦ダブルス	予選リーグ敗退	原野 恋羽(4J)・菅谷 美羽(4C)		
剣道	有明	8/30～8/31	女子団体戦	予選敗退			

## 令和7年度 全国将棋大会結果一覧

種目	開催校	開催期日	結果			備考	
将棋	熊本	8/27～29	団体戦	予選敗退	群馬		
			男子個人戦	ベスト8	余 夏輝(5J)、 田村 遥斗(4J)、 安川 蒙一郎(2-5(E))		
				ベスト16	阿久澤 聖蒼(5J)		
				予選トーナメント敗退	前原 慎之介(3K)		
			女子個人戦	優勝	古市 灯1-1 (K)		優勝
			予選敗退 (女子総合8位)	堂前 美緒(3K)			

## 令和7年度 地区体育大会結果一覧

種目	開催校	開催期日	結果			備考	
陸上競技	小山	7/12～7/13	男子100m	7位	小玉太陽 (2K)	11秒86	
			棄権	北野淳聖 (2C)			
			男子200m	予選敗退	中野孔太 (1K)	26秒79	
			男子400m	予選敗退	起原 舜 (2C)	58秒43	
			男子800m	予選敗退	内田智也 (4M)	2分14秒55	
				予選敗退	下境悠成 (1K)	2分36秒45	
			男子1500m	14位	吉田和生 (2K)	4分55秒57	
				16位	藤原禎玖 (1M)	5分07秒01	
			男子110mH	5位	池田直史 (2K)	16秒77	
			男子3000mSC	7位	中村尊智 (2K)	10分46秒59	
			男子4×100mR	6位	池田直史 (2K) 高橋康祐 (2C) 中村尊智 (2K) 小玉太陽 (2K)	45秒72	
			男子走高跳	4位	高橋康祐 (2C)	1m70	
				8位	内田智也 (4M)	1m60	
			男子走幅跳	6位	勝又海渡 (3K)	5m93	
				11位	古河 隆 (1C)	5m32	
			男子三段跳	2位	勝又海渡 (3K)	13m05	全国大会出場
			男子砲丸投	2位	狩野太志 (2M)	10m83	全国大会出場
				8位	吉原 律 (1E)	9m10	
			男子円盤投	4位	狩野太志 (2M)	28m42	
				12位	吉原 律 (1E)	19m18	
女子800m	7位	森田えみり (1C)	2分55秒67				
女子3000m	3位	大谷恵舞 (3C)	12分24秒24				
	8位	森田えみり (1C)	13分16秒89				
水泳	小山	7/5	男子100m背泳ぎ	優勝	黒澤 一輝(3K)		全国大会出場
			男子100m平泳ぎ	7位	岡田 和也 (3M)		
			男子200m背泳ぎ	優勝	黒澤 一輝(3K)		全国大会出場
			男子200m自由形	7位	園田 璃空 (1J)		
			女子100m平泳ぎ	4位	浅野悠里子 (3E)		
			女子50m自由形	3位	角屋 玲那(3K)		
			女子100m自由形	8位	佐々木彩希 (4C)		
			男子50m自由形	4位	佐藤尊希亜 (1K)		
			男子800m自由形	6位	園田 璃空 (1J)		
			女子200m個人メドレー	優勝	櫻井 花梨(5C)		全国大会出場
			男子4×100mフリーリレー	5位			
			男子4×100mメドレーリレー	2位			全国大会出場
			女子4×50mフリーリレー	3位			
			女子4×50mメドレーリレー	3位			
野球	茨城	6/21～6/22	3位				
			1回戦	群馬 7-6	小山		
			2回戦	群馬 4-11	木更津		
バレーボール	産技荒川	7/20～7/21	男子	予選リーグ敗退			
				3戦 1勝2敗 (予選敗退)			
			女子	2位			
			1戦 1勝0敗				
			2戦 1勝1敗				

種目	開催校	開催期日	結果			備考	
バスケットボール	サレジオ	7/5～7/6	男子	予選リーグ敗退			
				群馬 53-100	小山		
				群馬 60-71	産技荒川		
			女子	準優勝			
		準々決勝	群馬 58-30	小山			
		準決勝	群馬 82-23	茨城			
		決勝	群馬 46-56	長野			
サッカー	木更津	6/21～6/22	4位				
			1回戦	群馬 5対1	サレジオ		
			2回戦	群馬 1対4	小山		
		3回戦	群馬 1対4	木更津			
テニス	産技品川	6/28～6/29	男子団体戦	3位			
				2回戦	群馬 2-1	産技荒川	
				準決勝	群馬 0-2	長野	
				全国大会出場補欠決定戦	群馬 0-2	木更津	
			男子個人戦シングルス	入賞無し			
			男子個人戦ダブルス	入賞無し			
ソフトテニス	木更津	7/5～7/6	男子団体戦	3位			
				3回戦	群馬 1対2	長野	
				準々決勝	群馬 2対0	茨城	
				準決勝	群馬 1対2	小山	
				3位決定戦	群馬 2対1	長野	
				男子ダブルス	ベスト8	主代悠翔 (4C)・太田知希 (4J)	
					ベスト8	関口未来 (2M)・立部諒馬 (1M)	
					ベスト8	佐藤颯泰(2K)・小林幸太郎(2M)	
卓球	長岡	6/28～6/29	男子団体戦	3位			
				1回戦	群馬 3対0	産技品川	
				準決勝	群馬 0対3	茨城	
			女子団体戦	準優勝			
				1回戦	群馬 3対1	東京	
		決勝	群馬 2対3	小山			
		女子個人戦ダブルス	準優勝	原野 恋羽(4J)・菅谷 美羽(4C)	全国大会出場		
バドミントン	群馬	7/5～7/6	男子団体戦	入賞無し			
				2回戦	群馬 0対3	東京	
			女子団体戦	2位			
				1回戦	群馬 3対0	小山	
		準決勝	群馬 2対1	茨城			
		決勝	群馬 0対2	長野			
		個人戦(ダブルス)	入賞無し				
		個人戦(シングルス)	3位	田口 青空 (3K)			
柔道	群馬	7/12	男子団体(3人制)	入賞無し			
			男子個人戦	入賞無し			
剣道	長野	6/29	男子団体戦	予選敗退			
			女子団体戦	優勝			
				1回戦	群馬 2対0	木更津	
				準決勝	群馬 2対0	サレジオ	
				決勝	群馬 2対0	小山	全国大会出場
		男子個人	入賞無し				
		女子個人	入賞無し				

## 球技大会報告

### 令和7年度 球技大会無事終了！

一般教科 (人文) 櫻岡 広

6月18日(水)に令和7年度の球技大会が開催されました。いつも梅雨の時期で天気が心配でしたが、今年の短い梅雨と少ない降水量のおかげで無事に終了することができました。審判をしてくださいました。野球部・テニス部・サッカー部・バレーボール部・バスケットボール部・卓球部の部員の皆さん、ありがとうございました。

梅雨時ではなくほかの時期(5月や10月)にという声は以前からあるのですが、本校の「授業・行事計画」を見ても、雨の心配を除けばこの時期に行うのが最も良いと思っています。ちなみに、私が本校に赴任して37年目で毎年球技大会が開催されていますが、雨天で延期等の影響を受けたのは3回程度です。

各種目の1・2・3位は以下の通りです。皆さん、来年も頑張ってください。



	1位	2位	3位
バレーボール	専攻科	3 E	4 K
フットサル	専攻科	4 K	3 M
バスケットボール	専攻科	1年5組	1年3組
テニス	教職員	3 M	5 C
ソフトボール	5 M	4 C	専攻科
卓球	3 K	1年1組	3 E

## 着任挨拶

### 7年ぶりの高専

本年度の7月より、環境都市工学科助教として着任しました山口恭平です。和歌山高専の環境都市工学科、そして専攻科(エコシステム専攻)出身です。再び、教員として高専教育に携わることができ、うれしく思います。群馬高専にくるまでは、大阪市の民間企業(建設コンサルタント)に勤めておりました。



環境都市工学科 助教  
山口 恭平

学術的な専門は、都市・地域減災、防災まちづくりです。都市の問題を俯瞰的に、調査したり分析したりしています。それから、VR技術を用いた防災教育もしています。環境都市工学科の学生さんはもちろん、他学科のみなさんにも、体験していただく機会を設けておりますので、ご参加いただけると幸いです。

最後になりましたが、学生・保護者のみなさま、これからどうぞよろしくお願いたします。

### 意外なつながりの面白さ

本年度9月に電子メディア工学科助教として着任いたしました、林利憲(はやしとしのり)と申します。専門は理論天文学で、特に重力下での3天体の運動を調べる、3体問題の研究を行っております。

一見すると、電子回路など電気工学分野との共通点はなさそうですが、根っこの部分で興味深いつながりがあります。単純な状況においても複雑で予想困難な挙動をみせることがあるという共通点です。群馬高専では、そんな一筋縄ではいかない自然・技術の深淵さを一緒に探究していければ嬉しく思います。

教員としてまだ駆け出しで、ご迷惑をおかけする場面も多くあると思いますが、日々精進していければと思います。

それでは、学生と保護者の皆さま、群馬高専職員の皆さま、これからどうぞよろしくお願いたします。



電子メディア工学科 助教  
林 利憲

### めぐり逢いのその先に

本年10月に教育研究支援センターに技術職員として着任しました、松山明子と申します。

私は群馬高専専攻科(環境工学専攻)の卒業生なのですが、これまでにいろいろな仕事を経験してきました。まず卒業後は、半導体の会社でプロセスエンジニアとして勤務しました。10年前に早期退職した後は、生活の形に合わせて土地や家屋の登記に関わる仕事、小学校の特別支援クラスの支援、そして着任の前日まで高崎市内の小学校で事務職員として働いていました。業務の内容はもちろん、関わる人も働く環境も本当に様々で、個性あふれる方たちと出会い、世の中のしくみにたくさん触れてきました。

そして、私の原点であるこの群馬高専と再びめぐり逢いました。これまでの経験を高専生のみなさんに還元できる働きができたならとてもうれしいです。これからよろしくお願いたします。



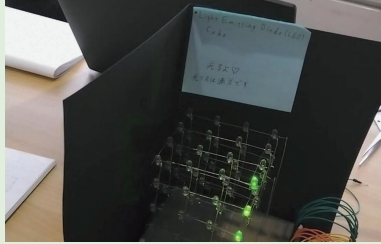
教育研究支援センター  
技術職員 松山 明子

## 理科部

### 楽しかった文化発表会

理科部 4E 相川 将吾

今年もわれらが理科部は文化発表会に参加しました。今回の参加人数は前回と同様5人で行きました。今年、私たちの部活では前回に引き続き電子ピアノを展示しそれに加えてLEDCUBE、電子オルゴール、新たにできた加速器班の展示を行いました。様々な年代の人に展示品を見ていただき成果を遺憾なく発表することができましたこと、とてもうれしく思います。来年に向けてもまた頑張りたいと思います。



## ダンス愛好会

### 大盛り上がりの文化発表会！

3K 堂前 美緒

ダンス愛好会は9/12～14で木更津高専主催の第47回関東信越地区高等専門学校文化発表会に参加してきました。

私たちの発表は1日目で、学校ごとのダンス発表の中では一番最後の枠でした。また一番長い尺だったため最後まで楽しんでもらえるかの不安がありましたが、皆で今までやってきた練習を信じて良いものを届けようという思いで臨み、無事大成功で終わることができました。今回は合同企画等其他高専との交流も多く、貴重な体験になりました。



## 電算部

### 高専の再認識

3J 上原 朋樹

電算部は部誌の配布、部員が作った作品の展示、試遊をしました。同じ部屋では自分たちと同じ電算系やプログラミング系の高専の部活の展示があり、さまざまなアイデアや作品に触れました。それに加えて、ほかの展示企画やホールでの発表では、高専生のやる気や情熱を感じられました。たくさん的高専生と交流ができた文発になりました。



# 関東信越地区

## 文化発表会を振り返って

学生会文発副代表 2年2組(E) 藤生 歩花

2日間お疲れ様でした！皆さんの発表はどれも素晴らしく、とても楽しませていただきました。初めての文化発表会参加で不安もありましたが、無事に終わられたのは、支えてくださった学生課・教職員の皆さま、先輩方のおかげです。心より感謝申し上げます。改めて心に残る素晴らしい2日間をありがとうございました。

## SF研究部

### SF研究部の文発を終えて

2年3組(J) 小野 藤次郎

ライブRPGの講演をどうにか完遂できたことは大きな達成感でした。普段関わりの少ない部活の活動を知れたり部誌を読んだり、他高専の学生たちと交流を深める機会に恵まれたことも、非常に新鮮で楽しい経験となりました。今回のイベントを通じて、新たな発見と視野の広がりを感じる充実した期間となりました。



## 吹奏楽部

### 海あり県っていいなあ

3K 田中 力

吹奏楽部は9月の12～14日に木更津市で開催された地区文発に部員25名で参加しました。会場では総勢約100人の大合奏を行い、各高専から持ち寄った曲を演奏しました。演奏とともに私の印象に残ったのが現地で食べたお寿司でした。やはり海が近いからか魚の新鮮さを強く感じました。私のお財布は大変なことになりました。とても良い体験だったので後悔はしていません。



## 茶道部

### 文化発表会を経て

3K 石橋 野乃葉

今年の地区文化発表会は、茶道部8人で参加しました。

今回の文発が初めてのお茶会の場という部員が多くて不安でしたが、無事に終わることが出来ました。みんなにお茶会の雰囲気味わってもらえたと思うのでとても良かったです。また、他高専のお茶会に入り、違う流派のおもてなしを受けられていい勉強となりました。



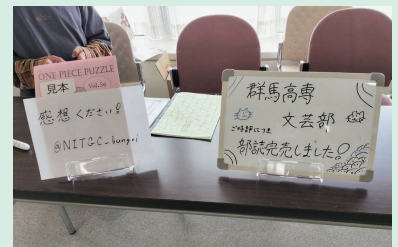
# 文化発表会

## 文芸部

### ふとした時に思い出す

3E 堀越 陽葵

今年も例年通り部誌の頒布を行った文芸部ですが、これが大好評。早々に完売となりました。本当に嬉しい限りです。空いた時間に他高専のブースに遊びに行き、他高専の文芸部とも交流を深めました。文芸部以外の部活の展示や発表などを巡っているうちに、あっという間に二日間が終わってしまいました。楽しかったこともやらかしたことも含めて、かけがえない思い出になりました。

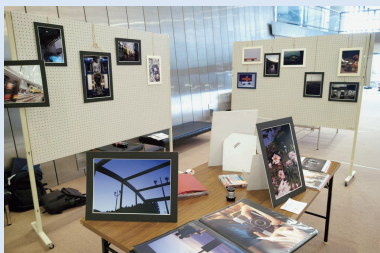


## 写真部

### 写真部としての学び

写真部 2年4組(E) 塚原 陽向

今回の文発での一番の収穫は、他校の写真部と交流できたことです。高専ごとに写真の特徴や盛んな活動に様々な違いがあることなど、あって話をすることで多くの気付きを得られました。展示されていた他校の作品からも、同じ学生の写真ということもあって、大いに刺激を受けました。今後の写真部の活動をもっと充実したものにできるように、この機会に得た学びや刺激を活かしていきたいと思えます。



## 演劇部

### 演劇部がんばりました

4E 宮下 結衣

文発での公演は当初小ホールの方でした予定でしたが、実際に割り当てられたのは席数が千を超える大ホールでした。会場広すぎて声通らない?と不安もありましたが、やってみると特に問題なく演技を楽しめたのでむしろ大ホールで良かったです。他高専の演劇部との交流もできたので、文発は部にとって良い経験になったと思います。





# 1 日 研

## いざ首都へ

1年1組 小坂橋 雅人

9 / 18、夏季休暇も終わるころ、私たちは東京の国立科学博物館を訪れました。久しぶりの再会をバスの中で楽しみ、博物館の中では日本の文化や歴史、生物などの展示に目を輝かせました。短い時間ながらとても有意義な体験だったと実感しています。



## 飛行機の裏側

今回、2MはJALエンジニアリングのJALの飛行機の整備風景を見学できていた。特に面白かったのが機体整備場学でき、機体の要所などの説明を聞くこまた、エンジン整備場では数千個のパーして検査し、交換などを施してもう一度いう作業を行っており、とても驚愕した。なかったことを沢山知ることが出来、飛の知見をさらに深めることが出来た1日

## 科学の魅力を体感して

1年2組 島田 航

国立科学博物館では、恐竜の化石や宇宙の展示が特に印象に残りました。実際に見て触れることで、教科書では感じられない迫力と楽しさを体験できました。



## 奥地の電波観測所、野辺山

今回、2Eは野辺山宇宙電波観測所に行きました。そこでは、100億光年先まで観測できること、計測器が大量にある、日本でも珍しい観測所であることなどを学びました。この研修旅行で学んだことを、これからの勉学に活かしていきたいです。

## 宇宙開発の最前線に触れて

1年3組 新井 大和

筑波宇宙センターの研修旅行では、実際に宇宙衛星との交信の様子を見学し、宇宙開発の最前線を間近に感じることができました。職員の方の説明もわかりやすく、宇宙技術の高さと日本の科学力に深く感銘を受けました。



## 2-J 研修旅行

今回の研修旅行では、2年J科は華街と放送ライブラリに行きました。では、グループごとに行動し昼食をりお土産などを買ったりしました。イブラリでは、これまでの放送の歴んだり、貴重な資料の見学などを行って、たくさんの発見がありました。

## 頂の景色

1年4組 松山 結衣香

赤城の天気は快晴とは言えなかったが、今まで生活していた空間から隔離され、とても新鮮だった。特に頂上で食べたおにぎりはいつもよりもいっそうおいしく感じた。これからも新しい体験探して生活していきたいと感じた。



## チキンラーメン作りから学ぶ大

私たち2Kは、カップヌードルミュージアム見学の時間があり、その後にチキンラーメン館内には第一号から今の形までの歴代の深さや種類の多さに驚きました。また、チキに、普段当たり前のように食べているカップ側に、様々な工夫と技術があることを知ることこれらの体験を通して、日常生活の中にントがあると教わり、1日1日を無駄にしたいと思えました。

## 科学博物館

1年5組 根岸 凌雅

高専に入学して初の研修旅行、私達は東京の「国立科学博物館」へと向かった。今回の研修旅行を通して、科学の世界の広さを実感したし、もっと知りたいという気持ちも生まれた。これから高専で学んでいく中で、この経験を大切にしていきたい。



## 「秋晴〜れ」の日に「ノヴァ〜レ」に

私達は「温故知新の森 NOVARE」に行ってきました。高層ビルの基礎部分、清水建設さんが携わった建築物の模型などが展示されていました。免震構造の展示は印象的で、耐震・制震・免震の違いも学びました。

# 修 旅 行



## 2M 渡邊 煌大

成田整備場を見学した。普段乗っているともあり、到着前から期待をふくらませでの見学で、間近から整備中の機体を見ることが出来た。ツを全て分解組み立てるとこれまで知ら行機についてだった。



## 貴重な体験！！

僕たち3Mは(株)牧野フライス製作所厚木工場を訪れました。工場内の温度をコンピュータで23℃に制御して、製品の品質だけでなく使用する工具の精度まで維持していることに驚くとともに、普段実習で用いているフライス盤や複合加工機の内部構造や製造過程を知ることができ、とても貴重な体験になりました。

## 3M 大塚 徠希



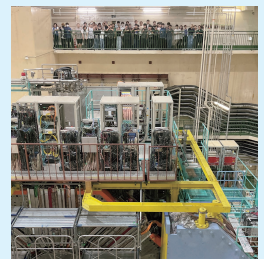
## 2E 伊勢 文秋



## KEKの訪問を得て

3EはKEKを訪問し、研究で使用する加速器を見学しました。また研究過程で開発された非動力で真空を保つ装置が高値で取引される装置だと知りました。学びがどう社会と関わるか知り、学業への意欲が高まり、研究分野の事業展開の可能性も心がけようと思いました。

## 3E 吉原 郁



## 2J 黒田 大智

横浜中華街食べた放送ラ史を学たりし



## 多くの学びがあった研修旅行

僕たちは研修旅行でソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社を訪れました。クリーンルームに入り半導体の製造工程を見学しながら説明を受けられるなど貴重な経験ができました。

## 3J 松澤 諒



## 切なこと 2K 池田 直史

ムに行きました。最初に1時間ほど館内のン作りの体験をしました。インスタントラーメンの展示があり、歴史のンラーメン作りの体験では、その行程の多ブラーメンの裏とができました。大きな発明のヒないように生活



## 未来につながる日々の勉強

私たち3Kは、研修旅行でNIMSとJAXAを訪れました。見学で目にした実践的な物質加工技術は、将来の仕事と日々の勉強の結びつきがわからなかった私にとって大きな刺激となりました。

## 3K 田中 力



## 行ってきたよ☆ 2C 栗生 紗希

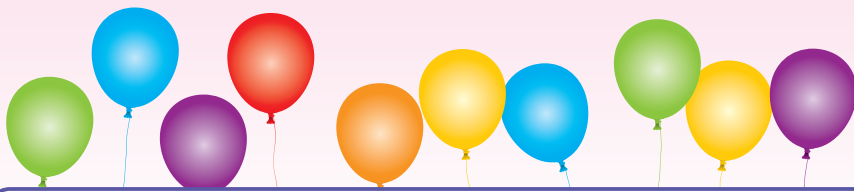


## 未来を考える

3Cは研修旅行で東京都にある水の科学館と日本科学未来館を訪れました。それぞれの施設では水・科学と生活の関わりについて体験的に学ぶことができ、とても貴重な体験になりました。

## 3C 山本 拓海





# 社 会 見

## 社会見学旅行報告

4M 町田 耀

今回の社会見学旅行は、中学の時に新型コロナウイルスの影響で県外に行けなかったため、とても楽しみにしていました。

JAL格納庫見学では整備中の飛行機を間近で見学し、目の前で飛び立つ姿に興奮しました。初めて訪れる九州への期待を胸に飛行機で福岡へ向かい、夕食は本場の博多ラーメンを堪能しました。

日本製鉄では高炉と圧延工場を見学しました。高炉は環境への配慮から電炉への転換が進み、減少傾向にあるため、貴重な体験ができました。

長崎では軍艦島を訪れ、ガイドさんの解説を聞きながらかつて炭鉱で栄えた島の繁栄と衰退を肌で感じる事ができました。夜に友達と汗だくになりながら山を登った先にあった夜景は、とても美しく感動しました。この社会見学旅行を通して友達と過ごした時間、見て学んだことの全てが忘れられない思い出になりました。



## 京都・大阪探訪記

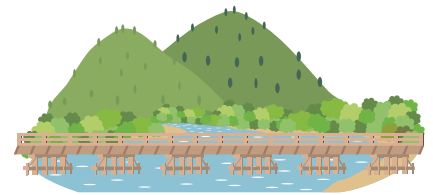
私たち4Eは、社会見学旅行で関西

1日目は新幹線で京都駅に到着。通行人の会話から自然と関西弁が耳にすることができました。

その後、島津製作所の創業記念資。これまでの成果について、実際の展示。その後、清水寺周辺を観光し、外日本におけるインバウンド需要の高

2日目は班別行動で、私たちの班に約1時間半を要し、各パビリオンをもう少し検討すべきだったかもし

今回の旅行では、島津製作所資料。また京都市内を実際に歩いて日。大変有意義な時間を過ごすこと



## 充実した修学旅行

4K 石澤 みゆう

私たちは4Kは、京都・大阪に3泊4日で社会見学旅行に行きました。2日目の午前中には京都府宇治市にある京都大学エネルギー理工学研究所の大型施設を見学し、大学院生との懇談も行いました。普段の大学院での生活を伺ったり、進路に対する相談などをさせていただき、とても充実した時間となりました。また、午後は大阪府高槻市にあるJT生命誌研究館に移動し、細胞の形態を研究されている黒田純平先生のミニ講義で蛍光タンパク質を使った研究成果を見せていただきました。

次に、DNAや遺伝子など、さまざまな展示を学芸員の方に紹介していただきました。

3日目の自由行動では、USJに行きました。楽しみ過ぎて、ホテルに戻るのとは逆方向の電車に乗ってしまい、帰着予定時刻を過ぎてしまいました…。トラブルも含め、勉学も遊びも充実した社会見学旅行でした。





## 4E 小菅 麗音

地方を訪れました。し、大型バスに乗り込む際、周囲のに入り、関西の雰囲気早速感じる料館を見学し、同社の創業の経緯や示を通して学ぶことができました。国人観光客の多さに驚くとともに、さを改めて実感しました。は大阪万博を訪れました。入場までも非常に混雑していたため、訪問日れないと感じました。館を通じて日本の工学の歴史に触本の文化や歴史を体感することができました。



## 研修旅行

## 4J 柴崎 拓大

私たち電子情報工学科は京都、大阪へ2泊3日の研修旅行に行きました。

初日は京都大学のスーパーコンピューターを見学後、京都観光をしました。スーパーコンピューターの見学では普段見ることのできない施設、技術を自分の目で見ることで日本技術のすばらしさを実感しました。京都の清水寺では古き良き建築物に感動し、雰囲気を堪能できてよかったです。

2日目は大阪観光をしました。道頓堀での食べ歩きを思う存分に楽しみ、レポートに疲弊した私たちに癒しを与えてくれました。

3日目は大阪万博に行きました。大屋根リングからの夜景は圧巻でした。日本パビリオンでは「火星の石」に触ることができました。正直、道に転がっている石と変わらないように感じました。裏を返せば、遥か彼方にある星に地球とほぼ同じ性質をもった星があるということに価値があると思いました。

3日間を通して最先端の技術を実感するとともに、仲間と絆を深めることができ思い出に残る旅行となりました。



## 待ちに待った社会見学旅行

## 4C 狩野 僚大

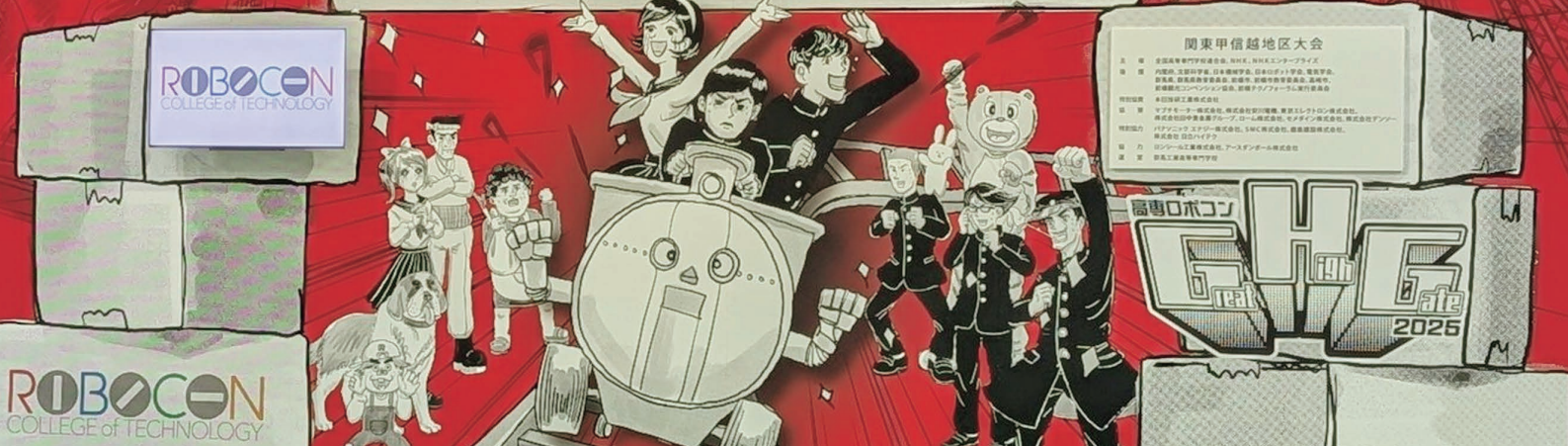
私たち4Cは9月16日から19日まで3泊4日の社会見学旅行で大阪に行ってきました。初日は、わが国有数の基幹空港である。伊丹空港に行ってきました。そこで滑走路を飛行機が飛び立つ場面を間近で見て、安全に飛行機が離着陸できるように滑走路の整備がとて行き届いているなと思いました。夜は移動で疲れていましたが、串カツをパンパンに食べて疲れも吹っ飛びました。

2日目は人生初のUSJに行きました。ちょうどハロウィンホラーナイトがあり、たくさんのゾンビたちに囲まれ危うくゾンビになるところでした。とても刺激的で非日常的な体験ができました。

3日目は自由行動でアメ村や道頓堀のほうに行き、一日たっぷり大阪を観光して来ました。帰りの新幹線は疲れすぎて気づいたら東京に着いていて、気づいたら群馬にいました。この4日間でクラスの仲間とさらに仲が深まり、とても有意義な4日間となりました。



# 高専ロボコン2025 関東甲信越地区大会in群馬



## 選手もスタッフも過酷な戦いの一日

高専ロボコン2025 競技委員長 平社 信人

令和7年10月12日(日)に、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(通称、高専ロボコン)関東甲信越大会が、ALSOKぐんま武道館において開催されました。競技内容は、「Great High Gate」という競技課題で、ロボットがボックスを積み上げてゲートをつくり、そのゲートを人が乗った台車と一緒に通過する競技内容となります。年々、難易度を増す高専ロボコンにおいて、群馬高専から「群馬A:赤鉄(アカバサミ)」と「群馬B:門ing娘(モンニングムスメ)」の2チームが出場し、Aチームは、東京エレクトロン賞を受賞しました。選手同様にスタッフも激しい戦いの一日となりました。



## ゲートの向こう 2年4組(M) 織本 航平

十月十二日、今年の高専ロボコン関東甲信越地区大会は群馬県前橋市にあるALSOKぐんま武道館にて行われました。私が参加したAチームは予選リーグ敗退。しかし、ロボット制作における課題解決が評価され東京エレクトロン株式会社様から特別賞をいただきました。

今大会は、大会成績としては残念な結果に終わり、自分の設計面や製作面における課題が浮き彫りとなった悔しいものとなりました。しかし、大会期間中に今年度まで部内の技術不足で使用できなかったモータの実装や、他チームの機体を間近で見ることによって今の自分が何をすれば良いか、これからをどう過ごすか、自分の進行方向を定めることができたため、全体の結果を考えると貴重な経験であったと思います。

これから来年度の高専ロボコンに向けた活動が始まります。今回の反省と経験を糧として積み上げて、積み上げて、積み上げて邁進して参ります。



## 題名「 」 3E 池田 光篤

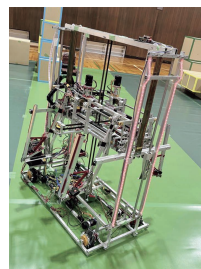
何も感じない。確かにそこに湧き上がるほどの歓声と、拍手が鳴り響いていた。しかし、それは我々に向けたものではなかった。

高専ロボコン。全国のロボット好きの高専生が優勝、ロボコン大賞を目指し感動と涙溢れる大会である。私はそんな大会の群馬Bチームリーダーになった。いや、なってしまったというほうが正しいだろう。

今年の課題は大まかに「ロボットで門を作り、人が乗る台車と共に門をくぐる」であった。チームで綿密に作戦を練り、時にはぶつかり、嫌になった。それでも、最後まで続けられたのは、やはりロボコンが好きなのだろう。

紆余曲折を経て、大会当日。ロボットはボックスを積み上げるのすら危うい状態だが、覚悟を決めた。初戦負け。混沌とした思考の中、妙な安心感さえあった。「全て終わる。」そう考えて気持ちが緩んでいたのかもしれない。

既視感さえあった、二度とないだろうに。あとは動かすだけだった。それだけだった。



## 高専プロコン競技部門への取り組みの振り返り

5J 藤田 恭輔



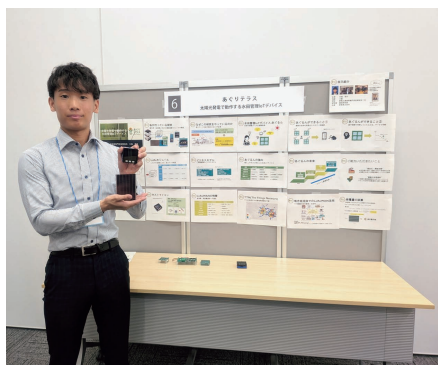
私たちは、10/11～12に島根県松江市で行われた高専プロコン本選の競技部門に参加した。

競技部門では、盤面のピースをより少ない操作回数で揃えるパズルのような問題で競った。私たちは運も味方し準決勝で勝利でき、決勝に進むことが出来たが、決勝戦の難問に歯が立たずそこでは最下位となり、9位という結果に終わってしまった。

パズルの解法として色々な案があったが、ゴールデーンウィークの時点で1つに絞り切ってしまう、ほかの案をほとんど検討しなかったことは可能性を狭めてしまう結果となり、強く後悔が残っている。

## ぐんまテックグランプリ・ファイナリスト 選出および群馬高専として初の企業賞受賞

AP1 本島 琉矢



この度、私は「第5回ぐんまテックグランプリ」に出場し、テーマ「太陽光発電で動作する水田管理IoTデバイス」に関する7分間のプレゼンテーションを行い、その内容が評価されて企業賞である「カネコ種苗賞」を受賞しました。コンテストでのプレゼンは初めてで緊張もありましたが、指導いただいた先生や周囲の方々の支えが力となり、今回の受賞につながりました。また、発表を通じて多くの方と新たなご縁が生まれ、このコンテストに挑戦して本当に良かったと感じています。今後も学びを深め、地域の課題解決に活かせる取り組みを続けていきます。

## 渡良瀬遊水地・多々良沼バスツアー

環境都市工学科 准教授 永野 博之



令和7年10月18日に宮越特命教授の研究である「水辺環境で体験的に学ぶCBDからSDGs」と地域連携テクノセンター生物教育研究連携会議の共催イベントとして渡良瀬遊水地（栃

木県栃木市ほか）と多々良沼（群馬県館林市邑楽町）を巡るバスツアーを開催し、本校学生と教職員あわせて15名が参加しました。

渡良瀬遊水地では、ガイドの方の現地案内も受けながら遊水地の歴史や特徴などを学びました。ラムサール条約登録湿地として有名な遊水地ですが、環境保全面での意義だけでなく、洪水時に発現する治水機能についてもご紹介いただきました。多々良沼では各自が思い思いに沼を巡って水鳥などを観察しました。本校の水辺空間である正観寺沼とも関連づけて学ぶことができる有意義な機会となりました。

## SAMCON2025において受賞

AP2 井上 永遠



2025年3月22日に島根県松江市のくにびきメッセにて開催された国際会議SAMCON2025において「超小型衛星用パルスプラズマスラスタによる軌道遷移に関する研究」について発表を行い、「IEEEJ Industry Applications Society Excellent Presentation Award」を受賞しました。

私としては、2回目の国際会議となりましたが、頂いた質問に対し落ち着いて1つずつ回答をし無事終わることができました。また、他研究者とも交流を取ることができ非常に有意義な時間を過ごすことができました。今回の受賞に関しては、研究室のメンバーのご尽力のおかげと考えています。この場を借りて感謝申し上げます。

# 国際交流室

## 海外ってどんな感じ？

国際交流室長 熊谷 健

海外ってどんな感じだと思いますか？

話している言語が違う。文化が違う。景色が違う。食べ物が違う。物価が違う。清潔感が違う。安全意識が違う。考え方が違う。違っていている部分がたくさんあります。英語という言語を通して、世界を見てみたらどうでしょうか？

本校では毎年100名ほどの学生が海外に出て様々な「違い」を経験しています。オーストラリア研修に行った学生の集合写真を見て下さい。たった一瞬を捉えたものですが、学生の心のうちを想像することは難しいことではありません。きっと充実した経験であったことでしょう。

みなさんいかがでしょうか。言うまでもありませんが、様々な違いを経験することは人生においてかけがえのないものとなることでしょう。低学年の短期研修だけではありません。高学年の長期研修や「トビタテ！留学JAPAN」もあります。挑戦してみてはいかがでしょうか。きっと新しい自分になって帰ってくることでしょう。



## 語学研修を終えて

AP1 高橋 純大

フィリピンのセブ島での語学研修は、私にとって忘れられない貴重な経験となりました。青い海と温かい人々に囲まれた環境で、毎日、英語漬けの充実した日々を送りました。特にマンツーマンレッスンでは、自分のレベルや興味に合わせたきめ細やかな指導を受けることができ、以前よりも自信を持って英語を話せるようになりました。この留学で得た語学力はもちろん、困難に立ち向かう勇気や、新しい環境に飛び込む積極性は、今後の学校生活や将来に必ず生きてくると確信しています。このような素晴らしい機会を与えてくださった学校に心から感謝申し上げます。



## 初めての海外での経験

3K 岡 仁十郎

初めての海外への渡航経験となった今回の「オーストラリア語学研修」。ブリスベン空港に足を踏み入れた瞬間、目に飛び込んできたのは、あふれんばかりの外国語でした。

8月の最終日。成田空港から私たちを乗せた飛行機は飛び立ちました。機内アナウンスやフライトマップなどで日本語圏からの離脱を徐々に感じ始め、約九時間のフライトは終わりました。約40名の学生と足を踏み入れた初めての海外では、沢山の新鮮な出来事を経験しました。慣れない言語でコミュニケーションにチャレンジすることは大変だったけれどとても楽しかったです！



## EXPO2025Osaka参加報告

### 大阪関西万博への出展

AP1 滝谷 優太

6月18日・19日の二日間、大阪・関西万博に「紙飛行機を飛ばす乗用ロボット～ミラクルライド～と超小型衛星展示」と題して、今年度内に打ち上げが予定されている超小型衛星「KOSEN-2R」と、2023年の工華祭にて出展した紙飛行機を飛ばす乗用型ロボット「ミラクル☆ライド」を展示しました。

超小型衛星やロボット展示について、興味を持った方々から多くの質問や応援を貰うことができました。また、小学生や外国人も含めた多くの方が群馬高専ブースに来て楽しんでいただけました。自分が携わったものを万博という場で展示することができて嬉しく思います。



# インターンシップ2025

## 予習と復習どっちが大事？

インターンシップ支援室長 出口 米和

令和7年夏のインターンシップも数多くの企業さんから受入れのお申し出をいただきました。専攻科1年生は全員参加し、本科4年生は128名（予定者含む）の学生が参加することができました。この場をお借りして、学生を受け入れて下さった企業、大学・研究機関等、また、群馬高専の関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

さて、題目に書きましたが、予習と復習はどちらも大事です。インターンシップは授業ではありませんが、社会の一員として学ぶ貴重な機会です。インターンシップに参加して、学校で学んでいることがどのように利用されているのか等を実感した学生も多かったと思います。今回の経験を頭に置いて、これからの高専生活に役立てるように過ごしてください。



## みんなへ、インターンシップに参加しよう

4M 久保木 麻央

インターンシップでは企業の実験の一部を体験し、自分をより社会的に評価する材料を得られます。

定期テストの成績が良いことは素晴らしいことです。しかし、それは必ずしも企業が求める能力ではありません。インターンシップを通して仕事はチームで回っているということ、丁寧なコミュニケーションが欠かせないことを、私は肌で感じました。そして、自分はすべてを自己完結しようとする特性があると気づきました。実体験を伴う認識には価値がありますし、進路を考える上で役立ちます。以上よりインターンシップに積極的に挑戦することをおすすめします。



## インターンシップを通して学んだ“やりがい”の大切さ

4E 大澤 美晴

私は電子メディア工学科所属ですが、電気的な専門知識に自信がなく、当初はインターンシップにあまり前向きではありませんでした。しかし、9月上旬に参加したスパルテクノさんの実習でその考えは大きく変わりました。知識不足の私を部署の方々が理解し、温かく受け入れてくださったおかげで、最後まで目標に向かって前向きに取り組むことができました。

実習を通して、「知識や技術も大切だが、それ以上に仕事への姿勢ややりがいを持って楽しく働くことが重要だ」と実感しました。今回の経験で得た学びを、今後の就職活動や将来の成長につなげていきたいです。



## 実際に現場を見て感じたこと

AE1 岡本 悠甫

環境技研で10日間のインターンシップに参加し、企業や自治体から依頼を受けて行われる分析業務を見学しました。普段の授業で学ぶ内容が、実際には社会のニーズに応える形で活用されていることを知り、学びの意義を実感しました。さらに、装置の操作やデータの扱いを間近で見ることで、正確さと信頼性を守る姿勢の大切さも理解できました。

今回の経験は、環境分野の仕事が社会に直結していることを知る貴重な機会となり、今後の学習や進路を考えるうえで大きな刺激になりました。環境分野や分析業務に興味のある方は是非参加してみてください。



# 専攻科30周年記念事業

## 専攻科の歩み ～ 30年の軌跡～

群馬工業高等専門学校専攻科は、平成7年4月1日に設置され、本科での5年間の学びを基盤に、より高度な専門技術者の育成を目的に「生産システム工学専攻」と「環境工学専攻」が開設されました。平成9年3月21日には専攻科棟が竣工し、教育環境が整備されました。平成17年5月12日には「生産システム環境工学」教育プログラムがJABEE認定を受け、国際的にも通用する技術者教育の質が保証されました。以来、専攻科は高度な専門知識と実践力を備えた技術者の育成に力を注ぎ、地域や産業界との連携も深めてきました。

令和7年4月1日には創立30周年を迎え、節目の年となりました。これまでの歩みを礎に、本校はさらなる発展を目指してまいります。



竣工時の専攻科棟



基礎工事の様子

## 群馬高専専攻科のこれまでとこれから

専攻科長 友坂 秀之

群馬高専の専攻科は、学位授与機構が定める要件を満たすことが認定され、平成7年4月1日に設置されました。本年の令和7年に30周年を迎え、令和7年4月1日現在、修了生（専攻科では卒業生ではなく修了生）は1090名を数えます。

専攻科30周年記念事業として、9月24日（水）の午後、本校名誉教授（専攻科設置当時の教務主事）の田島進先生には講師として基調講演を、また専攻科修了生の磯和之様（専攻科2期生）、山田真義様（専攻科3期生）、鈴木麻里奈様（15期生）、および野口敬央様（17期生）にはパネリストとしてパネルディスカッションを、行っていました。

基調講演は、専攻科設置当時と研究（専門分野）に取り組む姿勢についてのお話でした。在校生にとっては難しい内容であったかもしれませんが、専攻科がこれまで（過去）どのような歩みであったのか、またこれから（未来）どのように歩むべきか、考えるよい機会をいただきました。講演には、教職員はもちろんのこと、これから専門分野へとさらに進む（将来を担う）学生への叱咤激励の思いが込められていたと思います。

パネルディスカッションでは、専攻科についての様々なご意見やご考え、またパネリストのご経験などについて、お話いただきました。専攻科を運営する教職員、また専攻科生を指導する教員にとって、今後の方針のヒントをいただけたと思います。在校生にとっては、自身の将来を考える上で、貴重な道標また大きな希望や励みになったはずです。

最後に、記念事業開催に際し、講師やパネリストをはじめとするご協力いただきました多くの方々に、またご参加いただきました本科生および専攻科生に、この場をお借りし感謝申し上げます。



### 編集後記

暑くて長い夏から短い秋、そして冬へと向かう季節。学校だより第136号は、行事が最も多い時季を駆け抜けるような一冊となりました。多くの方々にご執筆いただき、心より感謝申し上げます。皆様の思いが詰まった内容になったと思います。掲載されたイベントの中には、高専生活の「一番の思い出」となるものもあるかもしれません。誰かにとってのNo. 1の瞬間が、この紙面に刻まれているかもしれない—そう思いながら、ぜひご一読ください。  
(広報委員長 大岡 久子)